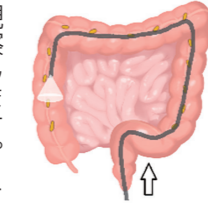


大腸内視鏡検査ってなあに？

皆さんは大腸内視鏡検査をご存じですか？この検査は、直径約1cmのスコープを肛門から入れて大腸の一番奥まで挿入し、引き抜きながら大腸の中にポリープ・がん・炎症などの病気がないかモニターを見ながら観察する検査です。



観察の際には、内視鏡から二酸化炭素ガスを送り込んで腸管を十分に広げ、ひだの裏の隅々まで観察します。これにより、おなかの張りを抑えられ、ご本人の負担を最小限にして検査が受けられます。



検査前には、大腸にたまって出さず必要があります。前日から検査用の食事を食べてもらい、当日は1ℓ以上の下剤を飲んで、何度もお手洗いに行き、腸の中をきれいにします。

検査は苦しい、怖いという印象が強いかもしれませんが、熟練した医師と内視鏡技師の資格を持つ看護師が、ご本人に合った最新鋭のスコープを選定し、苦痛が少なく検査を受けられるように援助させていただきます。

大腸ポリープが見つかった場合にはその場で切除ができます。また、ポリープやがんを疑うような病変があった場合には、必要に応じて組織の一部を採取し、詳しい検査に出すこともあります。

基本は外来での検査・処置を行っています。状況によっては入院での検査も可能です。検査は通常20〜30分程度で終わります。

＜このようなお方におすすめの検査です＞

- ・ 検診等で便潜血検査が陽性だった
- ・ 便に血が混じる
- ・ 便通に異常がある
- ・ (便秘や下痢を繰り返す)



- ・ 以前大腸にポリープがあると
言われたことがある
- ・ 家族に大腸がんになった方が
いる

＜大腸内視鏡検査でわかる主な病気＞

- ・ 大腸ポリープ
- ・ 大腸がん
- ・ 潰瘍性大腸炎などの大腸炎症性疾患
- ・ 大腸憩室症など



日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡技師認定証 (内視鏡室に掲示)

＜奥出雲病院で大腸内視鏡検査を受けてみませんか？＞

大腸内視鏡検査は予約制の検査です。まずは事前に総合診療科または外科外来をご受診下さい。受診の際には必ずお薬手帳をご持参下さい。

早期発見、早期治療にて健康な腸を維持するために、ぜひすんで大腸がん検診、大腸内視鏡検査を受けましょう。内視鏡スタッフ一同お待ちしております。

奥出雲病院予約センター
(54-2700)



そうだったのか！
がん専門医による抗がん剤のお話

第5回



【分子標的薬で狙い撃ち】

今回が連載5回目、『分子標的薬』のお話です。その前に従来の抗がん剤がなぜ、がんに効くのか説明しなければなりません。従来の抗がん剤は細胞分裂を阻害する働きがあります。以前、がんはもともと正常な自分の細胞が変化したものと説明しました。がんという組織は正常な細胞と比べて細胞分裂が活発で、細胞の増殖が速いというのが特徴です。その部分に着目し、細胞分裂を抑えてしまおうというのが従来の抗がん剤です。そうすると正常な組織の中でも細胞増殖の活発なところ、例えば毛根の細胞だとか、腸の粘膜の細胞だとか、白血球といわれる免疫細胞などはやはりダメージを受けてしまいます。そのために抜け毛が出たり、下痢をしてしまったり、栄養状態が悪くなったり、感染症を起こしやすくなったりするのです。

一方、『分子標的薬』は正常な細胞には存在せず、がん細胞だけがもつ特徴的な『標的』を狙い撃ちするような治療です。例えるなら、従来の抗がん剤は絨毯爆撃で、『分子標的薬』はスナイパーによる狙撃のようなものです。スナイパーによる狙撃であれば正常な組織へのダメージも少ないはずですよ。そのとおりで、『分子標的薬』には従来の抗がん剤で見られる吐き気、おう吐、抜け毛、けん怠感などの副作用が非常に少ないか、全く見られないことも多いのです。薬によっては下痢を起こしやすいものや間質性肺炎という特殊な肺炎を起こすものなど、副作用が全くないというわけではないのですが、体への負担が軽くなるのは確かです。

近年、この分子標的薬の進化が目覚ましく、それに伴い治療成績も向上しています。悪性リンパ腫に用いられるリツキシマブというお薬は、一部のリンパ腫の根治率を10-20%も底上げしましたし、昔は骨髓移植でしか治せなかった慢性骨髄性白血病という病気はなんと内服薬で治る時代になってきました。この進化は血液のがんに留まらず、『分子標的薬』は多くのがん種（つまり肺がんや乳がん、大腸がんなど色々ながん）に用いられるようになっていきます。次回は『免疫チェックポイント阻害薬』のお話をします。

